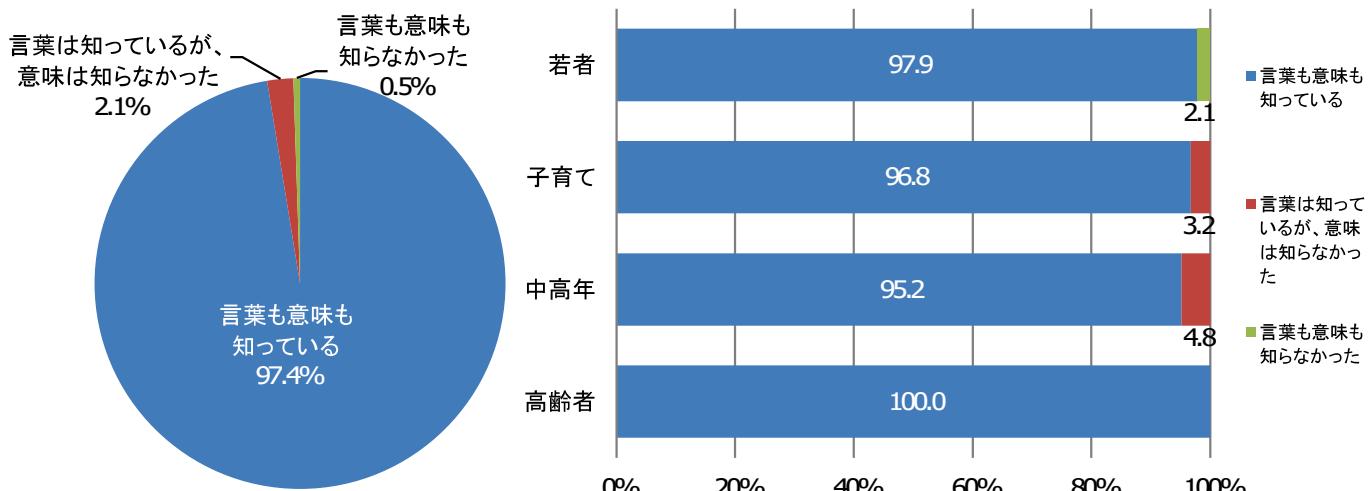


<DV(ドメスティック・バイオレンス)について>

※ DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者やパートナー(事実婚や元配偶者も含む)などの親密な関係にある者(あった者)からの暴力のことをいいます。身体的な暴力だけでなく、精神的な暴力、性的な暴力、経済的な暴力なども含まれます。性別に関係なく被害者になる可能性があります。

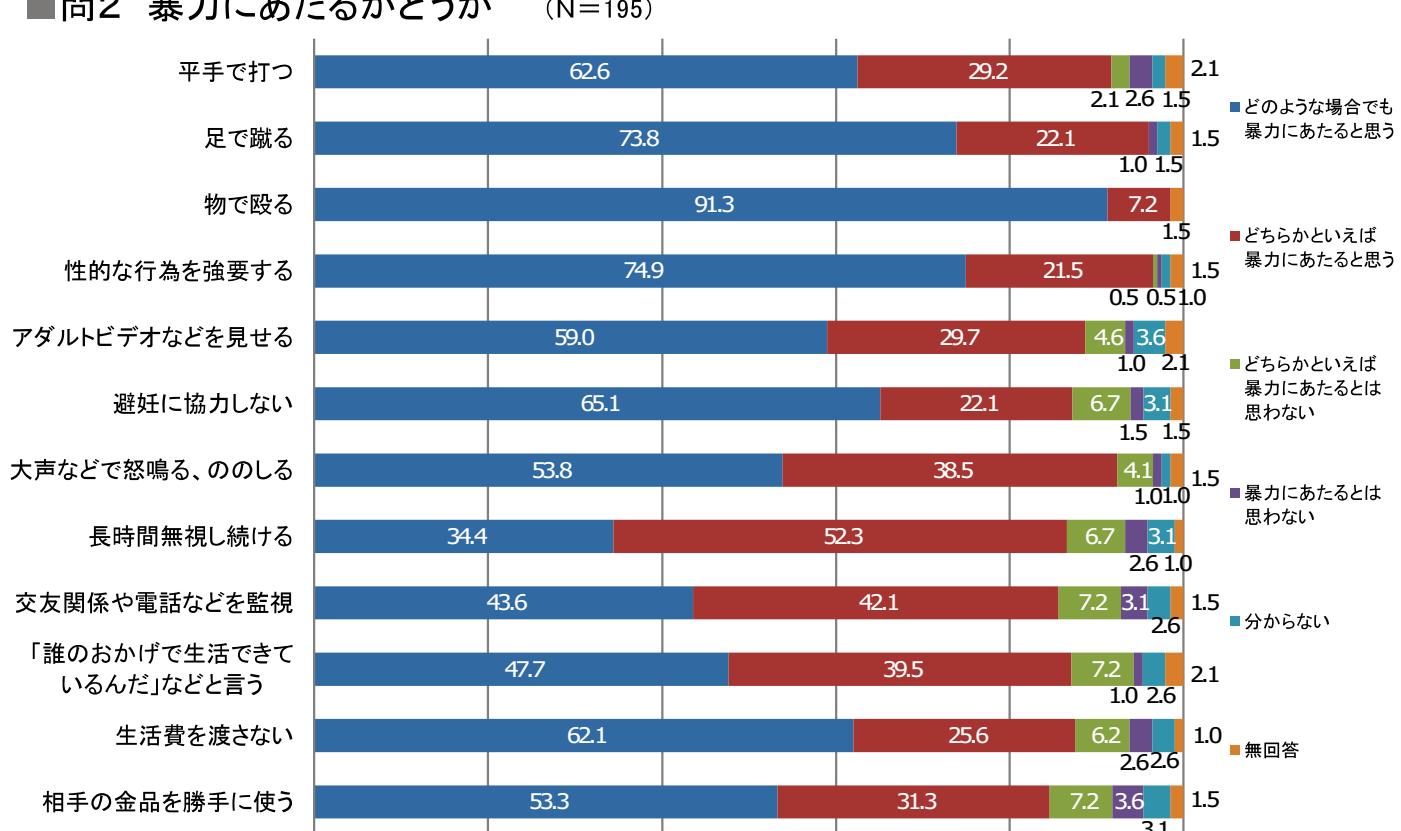
■問1 「DV(ドメスティック・バイオレンス)」の認知度



■ 「DV(ドメスティック・バイオレンス)」の認知度については、「言葉も意味も知っている」が約10割となっています。

■ 世代別にみても、全ての世代で「言葉も意味も知っている」が約10割となっています。

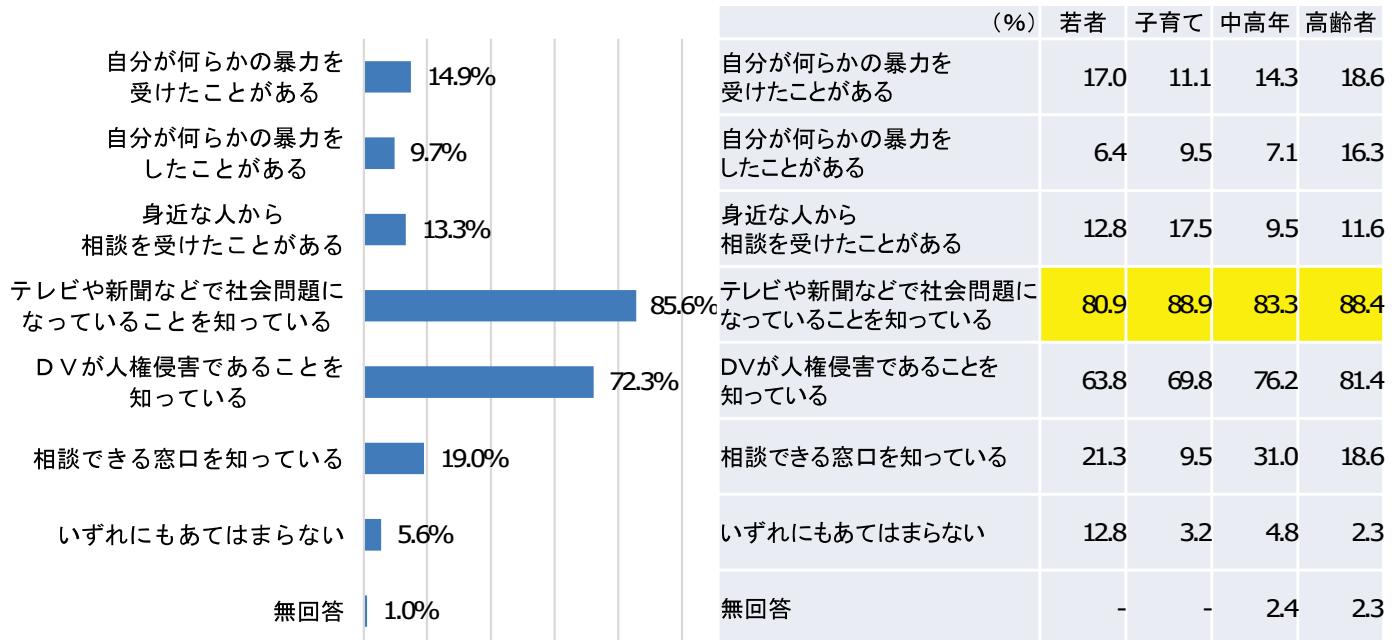
■問2 暴力にあたるかどうか



■ 暴力にあたるかどうかについては、「どのような場合でも暴力にあたると思う」のは「物で殴る」が約9割と最も高い回答となっています。

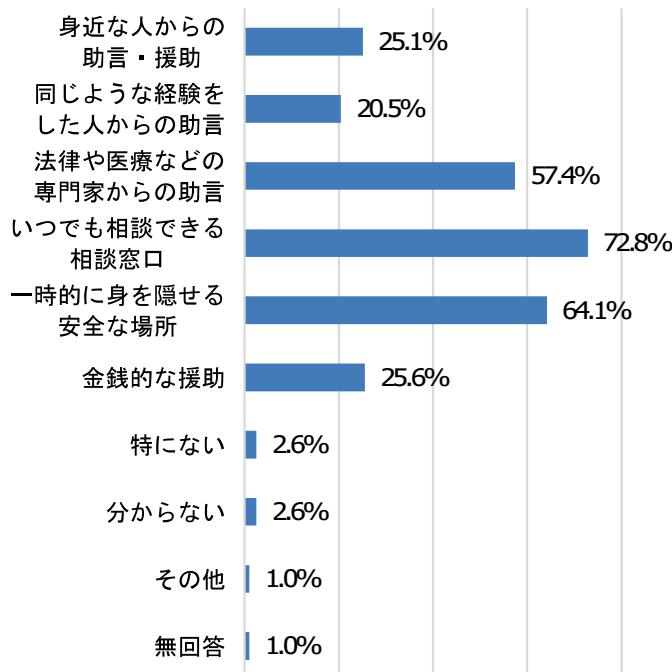
■ いずれのケースも、8割以上が『暴力にあたる』(「どのような場合でも暴力にあたると思う」と「どちらかといえば暴力にあたると思う」の合計)と回答しています。

■問3 DVについての経験や知識 (N=195 複数回答)



- DVについての経験や知識については、「テレビや新聞などで社会問題になっていることを知っている」が約9割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「テレビや新聞などで社会問題になっていることを知っている」が最も多い回答となっています。

■問4 DVを受けた場合、どのような助けがあればよいか (N=195 複数回答3つまで)



(%)	若者	子育て	中高年	高齢者
身近な人からの助言・援助	29.8	30.2	19.0	18.6
同じような経験をした人からの助言	19.1	27.0	19.0	14.0
法律や医療などの専門家からの助言	72.3	55.6	61.9	39.5
いつでも相談できる相談窓口	66.0	77.8	76.2	69.8
一時的に身を隠せる安全な場所	66.0	68.3	64.3	55.8
金銭的な援助	29.8	28.6	26.2	16.3
特にない	2.1	1.6	-	7.0
分からぬ	2.1	1.6	2.4	4.7
その他	-	1.6	-	2.3
無回答	-	-	-	4.7

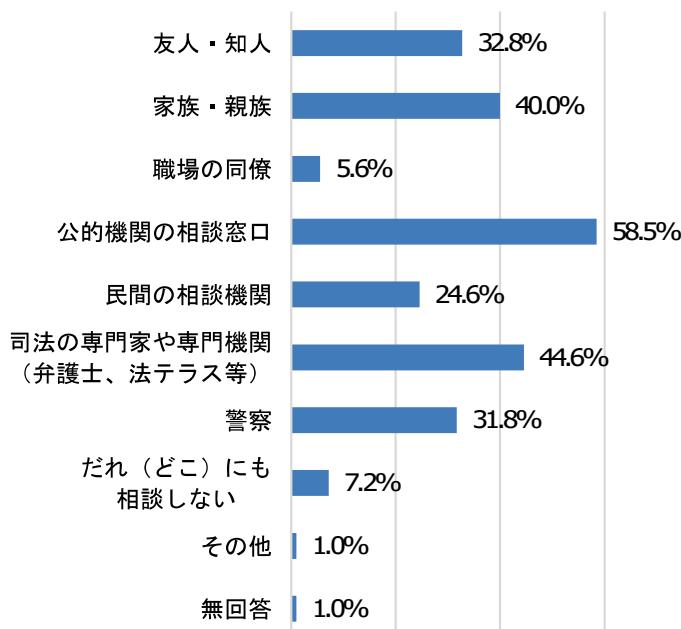
■その他意見

・加害者への対応施設

- DVを受けた場合、どのような助けがあればよいかについては、「いつでも相談できる相談窓口」が約7割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者では「法律や医療などの専門家からの助言」が、子育て・中高年・高齢者では「いつでも相談できる相談窓口」が最も多い回答となっています。

■問5 DVを受けた場合、だれ(どこ)に相談したいか

(N=195 複数回答3つまで)

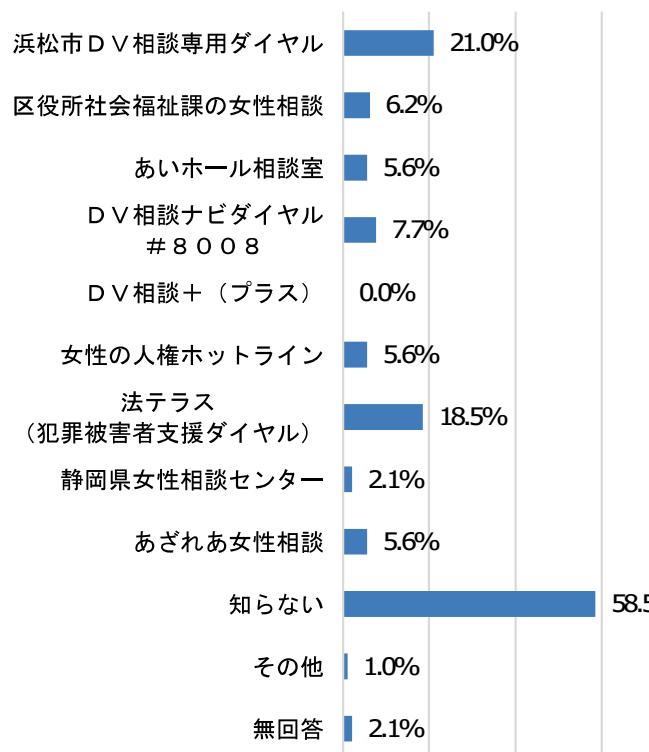


	(%)	若者	子育て	中高年	高齢者
友人・知人	42.6	41.3	19.0	23.3	
家族・親族	70.2	30.2	23.8	37.2	
職場の同僚	2.1	15.9	-	-	
公的機関の相談窓口	46.8	60.3	66.7	60.5	
民間の相談機関	10.6	27.0	35.7	25.6	
司法の専門家や専門機関 (弁護士、法テラス等)	46.8	39.7	50.0	44.2	
警察	38.3	34.9	28.6	23.3	
だれ(どこ)にも相談しない	4.3	9.5	4.8	9.3	
その他	-	-	-	-	4.7
無回答	-	-	-	2.4	2.3

- DVを受けた場合、だれ(どこ)に相談したいかについては、「公的機関の相談窓口」が約6割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者では「家族・親族」が、子育て・中高年・高齢者では「公的機関の相談窓口」が最も多い回答となっています。

■問6 DVの相談窓口で知っているもの

(N=195 複数回答)

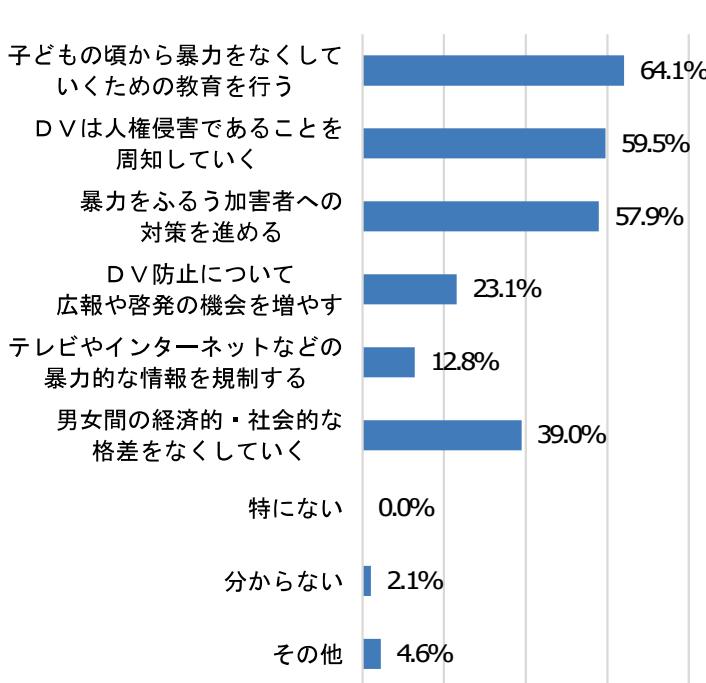


	(%)	若者	子育て	中高年	高齢者
浜松市DV相談専用ダイヤル	10.6	15.9	31.0	30.2	
区役所社会福祉課の女性相談	4.3	4.8	9.5	7.0	
あいホール相談室	6.4	3.2	2.4	11.6	
DV相談ナビダイヤル #8008	8.5	4.8	7.1	11.6	
DV相談+ (プラス)	-	-	-	-	
女性の人権ホットライン	10.6	-	9.5	4.7	
法テラス (犯罪被害者支援ダイヤル)	19.1	15.9	23.8	16.3	
静岡県女性相談センター	2.1	1.6	-	4.7	
あざれあ女性相談	2.1	-	14.3	9.3	
知らない	68.1	65.1	47.6	48.8	
その他	-	-	-	-	4.7
無回答	2.1	1.6	-	-	4.7

- DVの相談窓口で知っているものについては、「知らない」が約6割と最も多い回答となっていますが、「知らない」を除くと「浜松市DV相談専用ダイヤル」が約2割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、「知らない」を除いて、若者では「法テラス(犯罪被害者支援ダイヤル)」が、子育て・中高年・高齢者では「浜松市DV相談専用ダイヤル」が最も多い回答となっています(子育てでは「法テラス(犯罪被害者支援ダイヤル)」も同率)。

■問7 DVをなくすために必要だと思うこと

(N=195 複数回答3つまで)



	(%)	若者	子育て	中高年	高齢者
子どもの頃から暴力をなくしていくための教育を行う	68.1	61.9	66.7	60.5	
DVは人権侵害であることを周知していく	53.2	57.1	54.8	74.4	
暴力をふるう加害者への対策を進める	70.2	60.3	54.8	44.2	
DV防止について広報や啓発の機会を増やす	19.1	22.2	21.4	30.2	
テレビやインターネットなどの暴力的な情報を規制する	10.6	12.7	14.3	14.0	
男女間の経済的・社会的な格差をなくしていく	42.6	34.9	40.5	39.5	
特にない	-	-	-	-	-
分からず	-	3.2	4.8	-	-
その他	6.4	7.9	-	2.3	

■その他意見

- ・男性でも被害者になることの周知
- ・加害者への厳罰化
- ・ゆとりのある社会
- ・相手への尊敬の心

- DVをなくすために必要だと思うことについては、「子どもの頃から暴力をなくしていくための教育を行う」が約6割と最も多くの回答となっています。
- 世代別にみると、若者では「暴力をふるう加害者への対策を進める」が、子育て・中高年では「子どもの頃から暴力をなくしていくための教育を行う」が、高齢者では「DVは人権侵害であることを周知していく」が最も多くの回答となっています。